

(概要) 近年、我が国では生活の質の向上の基盤として ソーシャル・キャピタルの概念が注目されている(内閣府, 2002;2007) この概念は, 心の外部性を伴った信頼・規範、ネットワークを意味している(稲葉, 2007) 一定地域におけるハード面の社会資本ではなく、個人が捉える地域社会における人と人との関係性といったソフト面の社会資本をさす。本研究では、公衆衛生看護の実践にこの概念を取り入れる根拠と活動に有用な示唆を得るため、個人の内面や人と人との関係性と、地域との関係から“地域への愛着”の概念を捉えることを目的とする。小谷(2013)は地域への愛着の度合いが強い人ほど、近所に信頼できる人がいる人ほど幸福度が高いことを明らかにし、幸福度を増すには地域の愛着心の醸成と交流促進が課題となると述べている。本研究においても、地域の人々との交流を通じて“地域への愛着”が形成されることが示された。“地域への愛着”の形成により期待できる成果には、個人の健康行動や健康状態への効果も示されたが、それだけでなく、心理社会的な側面も含む総合的な QOL の向上が見出された概念分析より、“地域への愛着”とは「日常生活圏における他者との共有経験によって形成され、社会的状況との相互作用を通じて変化する、地域に対する支持的意識であり、地域の未来を志向する心構えである」と定義づけられた。

(感想) 私自身路上生活者の方々に調査を行っている、ほとんどの人が西成に対する愛着が大いにあると感じた。しかし、調査を行っているのは三角公園で談笑したり散歩したりしている、比較的、社交性がある方ばかりだ。そのため、地域の人々と関わるが多く、その中でも自身の役割を感じている方が多いと感じた。そのため、身を潜めている方や装いだけでは判断できない路上生活者の方々には直接アプローチすることが難しいと感じた。本稿を読んで、時間をかけてでも、地域への愛着を創出することが重要であると感じた。

参考文献：大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, ... & 齋藤美華. (2014) 「公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析」

『日本公衆衛生看護学会誌』 3.1 号、 40-48.